



2015年度 聖句
「何事も愛をもって
行いなさい」
(コリントの信徒への手紙
一第16章14節)

Facebookページ開設中! 『いいね!』を押してください

— CONTENTS —

izumi TOPICS

- ◆ 創立60周年目前特別対談「未来へ受け継がれる和泉の想い」 2
- ◆ 和泉の学生生活 4
- ◆ インターナショナルフィールドワーク 5
- ◆ 卒業生の活躍 7



創立 60 周年目前特別対談 「未来へ受け継がれる和泉の想い」

2016年に学校法人和泉短期大学は創立60周年を迎えます。そこで、7月11日に第6回定期総会で新たに選出された「同窓会いずみ」の役員3名の方々にお越しいただき、佐藤守男学長、土橋正文事務局長を交え、当時の学生生活や今後の和泉への想いを語り合いました。

佐藤守男 学長 臼井智恵子 副会長 遠藤陽子 会長 洲藤和泉 会計 土橋正文 事務局長

とにかく楽しかった 学生生活

「まず、3人は同じ卒業年度とお聞きしましたが、どのような学生生活を送られていましたか？」

遠藤 そうです。26期生で、3人は同じCグループです。2年生のときに佐藤学長が担任でした。当時は今は違ったコースがあつて、私たちは社会福祉Iコースでした。もう楽しくて仕方なくなつたですね。学生生活といえば和泉という感じですよ。
臼井 Cグループみんな本当に仲がよかつたです。いつも一緒にいました。

遠藤 月曜日から金曜日まで、あのころは土曜日午前中にもありましたね。平日も終わつてから、みんなボランティアに行っていました。

臼井 みつちりでしたけど、つまりさういふようになって周りがいるので、みんなに支えられていました。

遠藤 あまり苦労というか、悩みがなかつたですね。

洲藤 私はピアノが大変でした。佐藤 昔はピアノが必修だったからですね。単位としても、社会福祉コースは2年間で4年分の単位を取つていたので、とても大変だつたと思います。

遠藤 確かに周りの人には、2年間で福祉を学ぶという事に驚かれました。でもそれが当たり前だと思つていました。2年間で社会福祉士の受験資格を取りたくて入学しましたから。4年

間の学びを2年間で出来て、さらに実習にもたくさんいけて、これはすごいと思ひました。もちろん理論も学ぶので、理論も捉えておきながら、実践的な内容も学ぶことができました。

洲藤 佐藤先生の造形の授業で、今でもとても印象に残つてることがあります。ハサミの使い方、紙のどの部分を持つと使いやすいかを教えてもらいました。

遠藤 個人としても、新しいことや挑戦したいことをどんどんやっていよという雰囲気があつたので、やる気がある身としては本当にうれしかったです。
臼井 クラブ活動やサークル活動もとても活発でしたよ。

洲藤 就職してから、そういった多くの学びがとても役立ちました。学生のころは分からなかつた部分もあるのですが、就職して2、3年経つと、あのときの内容がこういうことだったのかつて。就職してからのほうが、和泉を卒業してよかつたなと実感しています。

佐藤 当時から彼女たちに思つていたのは、どうしてそこまで頑張れるのかということですよ。みんな、ボランティアを本当によくやっていたよね。アルバイトだつたら自分のためにするでしょ？でもみんなボランティアなのです。それも朝暗いうちから学校に来て、また暗くなつてから帰るという時間割の中でやっていたので、本当にすごいなと思つていました。

臼井 でも、あまり「ボランティアに来ました」という、押し付け

るような感じではなかつたです。
遠藤 「遊びに来ました。」とも、「やらなきゃ。」という気持ちとも違ひましたね。

今でも根付くキリスト教 教育の精神

「そこまで大変な時間割の中で、クラブ活動やサークル活動、ボランティアまで熱心にされていたのはすごいですね。」

佐藤 和泉はキリスト教主義の学校なので、礼拝があります。そのなかで「聖書の言葉」が常に話され、「祈りの時間」があるというところは大切なことです。彼女たちのいた当時は、キリスト教に関わる授業もすごく厳しかったんです。

土橋 私も学長の言われたように、「キリスト教の精神」というものが一番大きいのではないかと思います。もともと和泉の始まりは、第二次世界大戦後の厳しい時代において、日本の困窮した子ども達を救済するため、トラ物資という救済物資を日本に輸送船で送り、日本全国に配給し尽力された、本学創設の関係者であるバット博士なのです。これは国策ではなく、いちボランティア団体だつたのです。そしてクラーク博士が1956年に世田谷の中町に、児童養護施設の現任訓練保育養成所であるバット博士記念養成所を設立し、玉川保育専門学院、今の和泉短期大学と校名を変更しながら歴史を作つていくこと

になりす。今では1万8172名の卒業生が、保育現場、福祉現場等で活躍してくれてます。それが、先のお話の「ボランティア精神」というところへ脈々と受け継がれているのではないかと、みなさんのお話を聞いて感じました。これこそが、和泉の精神ですよ。

「時代や対象が変われど、変わることはない「和泉の精神」ですね。困っている方に手を差し伸べたいという気持ちがあるみなさんのやる気を出し、先ほどお話しただいた充実した2年間になつていないのではないかと思います。」

遠藤 「あるがままを受け入れる」という、キリスト教の精神があります。どんな人でもまずはすべてを受け入れるという姿勢です。それに加えて専門の学びを教えてもらう。そういうものとして仕事をするので、実際に実習や現場に出てもスムーズですよ。それこそ、子どもから大人まで、障がいを持つ人、その度合い、いろいろな人がいるので。なので、和泉で保育と福祉の両方を学んでいなければ、今の私はないと思つています。本当にありがたいです。人として、生き方として教えてもらいました。

洲藤 私はずっと保育園に勤めていて、一旦退職した時期もあつたのですが、その後また勤め始めました。最初就職したときに、和泉卒だからということと障がい児担当でした。そのと

きは理由がよくわからなかつたのですが、よくよく聞いたら、私は和泉で保育と福祉の両方を学んでいたからということだつたんです。その後もずっと障がい児担当です。だから、和泉で学んだことが本場に役に立っていると実感しています。

臼井 土橋さんの話を伺つて、私の勤務している法人も、法人活動の原点がトラ物資なんです。いろいろなことがつながつて今に至つていふと思ひます。

洲藤 今の私たちがあつたのは、和泉が受け入れてくれたおかげですよ。

遠藤 そうです。先生たちも、やれやれとどんどん押し付けるわけではなく、すごく親しみがあつた。なにかあつたら土橋さんの所へもすぐ行つていました。
遠藤 事務局の方も、聞けば教えてくれます。それが事務的ではないです。すぐに何でも聞くことのできる大人が、先生や事務局の方とたくさんいらつた。しゃつたのは恵まれていましたね。

洲藤 私、もう一度保育の現場に戻りたいというときに受けた職場が、「和泉」だつたらいいわねって受け入れて下さつたんです。すぐOKでした。和泉のネームバリューってすごいですよ。
遠藤 和泉の子は現場で生きる子が多いというのは、私の職場

今、そしてこれからの 和泉への想い

「これまでのみなさんのお話を振り返つて、今の学生に感じることがありますか？」

臼井 みんな元気がいいですよ。すれ違つると「こんにちわ」ってちゃんと挨拶してくれる。そういうところは変わらないんだなと思ひます。

洲藤 それは本当にそう思ひます。実習にくるときもきちんとしています。今の園長先生が、大学は人と出会うためのところだよとおっしゃっていました。和泉でいろんな人に出会えたから今の私があるのだと思ひます。今日のこれもそうです。このメンバーだからやろうつてなるし、佐藤先生にも土橋さんにもお世話になつていて、知つていふ方なのでどんどんお話しすることが出来ます。そういうつながりは大事ですよ。

佐藤 私は学生たちに、「隣人を愛せよ」ということを伝えたいと思ひます。隣人を無視する

のではなく、関心を寄せながら、自分に与えられた仕事を全うして欲しいと思ひます。そのため、和泉の2年間はいい準備期間になればいいですし、それが当たり前になる教育をしたいと思ひます。また、今日のみなさんのお話を聞いて、和泉が「児童福祉学科」という看板を掲げていることに改めて大きな責任を感じました。今後の社会を考えていく上でも、本当にいろいろな人に向き合うこと出来る人材を輩出していかなくてはならないと思ひました。一方で、社会が変わると和泉の教育の方向性も変わらざるを得ないと思ひますが、全てを変えたいとは思ひません。ね。そこは和泉らしさ、和泉の「建学の精神」を踏まえ、あまり社会に流されずに舵取りをしたいと思ひます。教育や福祉というのは、生産性を考えて行うものではありません。人間として大事な部分、尊厳に触れるものだから。

社会は常に移り変わり、それにに応じて教育や福祉の求められるものは変わり続けますが、その中でも変わらない和泉の学生らしさは今でも脈々と受け継がれています。そしてそれは、他者を受け入れ、他者の立場になり愛するという確固たるキリスト教精神から育まれているのだと改めて感じることが出来ました。2016年度法人創立60周年を契機に、これからの一層、和泉短期大学の教育が多岐の学生の生きる礎として受け継がれていくことを切に願ひます。



和泉の学生生活

聖書のことば



チャプレン 伊藤忠彦 (特任教授)

「山は移り、丘は動いても、わが慈しきは、あなたから移ることはない」

イザヤ書五十四章十節(旧約聖書)

私たちは、時代の様相、技術の急速な変化を目の当りにし、更に、今から2800年前に生きた預言者イザヤを通して語られた神の言葉「山は移り、丘は動く」を現実のこととして、目の当りにするようにになりました。

これ迄、安心して眺め、心を寄せていた世界の変貌の予感がします。

この変貌し、揺らぐ世界、また現代社会を、社会学者ラズ・パウマンが「リキッド・モダンティ」(液化化する社会)と呼んでいます。しかも、この液化化は自然世界

だけでなく、私たちの日々の生活、また、精神世界にまで及んでいるというのです。

液化化現象、それは私たちの生活の土台が、その土台を支える固い大地が形状を失い、流動化するのです。

今や、私たちは、長期目標を立て、それに向かって努力することは、無意味だと感じるような時代に生きています。

すでに33年前に、「視界ゼロに生きる」(小此木啓吾)と書いて、この時代の様相を見ていた人がいます。

未婚の若者が増えた、短期大学を卒業して3年以内に離職する人が41%もいる。(4年生の卒業では33%等々。(厚労省資料・平成23年卒)

この私たちの心配も、視界ゼロ、また液化化社会に生きる私たちの在り方、行動の表れなので

私は、この様に、確固とした足場だけでなく、向かうべき道さえ見つけにくい時代にある者として、このイザヤの口を通して語られている言葉を心に留めないではいられないのです。

ラーニングコモンズによる主体的な学びの促進

横川剛毅 准教授

2年間、あるいは3年間の学生生活の中で、自身の濃い学びをしている和泉生。課題、試験勉強、実習準備……。それらに主体的に取り組むことはとても大切です。しかし、これまで本学には自学自習を目的とした場が充分には整備されていませんでした。それゆえ学生は、学内の空きスペースを探し当てて時に不便さを感じながら学ぶか、自宅学習していました。

そこで、学内で自学自習できる場を安定的に提供したいと考え、300教室を「ラーニングコモンズ」として活用する計画を立案し、文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」に補助金申請いたしました。

一般的にラーニングコモンズとは、さまざまな情報資源から得られる情報を活用して議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するものです。ラーニングコモンズ化を計画している300教室は本学図書館に隣接しています。そこで例えば、授業で提示された課題について図書館で資料収集し、ラーニングコモンズで取り組むといったことが習慣化されることが期待できます。

本学はほとんどの卒業生が保育・福祉の専門職として就職します。課題に追われるのではなく、「与えられたテーマに対して、自ら計画を立てて取り組み、遂行していく実践力」を身につけていくことが大変重要です。

ラーニングコモンズの有機的活用を促し学びの質を高めていくこと。それによって、実践力のある保育者・支援者を今後も現場に輩出していきたくと強く願っています。



今年も相模白ゆり幼稚園の園児たちに向けて「造形あそび」の発表を行いました。



「子どもの食と栄養」の授業で、保育所給食(3~5歳児)の調理実習をしました。

インターナショナルフィールドワーク

シンガポールの乳幼児期の教育を学ぶ

相馬 靖明 准教授

2015年8月25日から29日にかけて、シンガポールの乳幼児教育について学ぶ研修旅行が実施されました。1年生6名、2年生8名、専攻科生2名、合計16名の参加でした。現地滞在の3日間で4つのプレスクー・ラーナリースクールを訪問しました。

シンガポールはご存知のように、多文化他言語の社会で長期滞在の日本人家庭も多く、今回訪問した4つのプレスクー・ラーナリースクールはいずれも日本人幼児が在籍する率の高い所です。

シンガポールでは、国の認可を得て日本の認可保育所にあたるナーサリースクールを開設することにありますが、日本との違いは、国からの財政的な補助が施設に対してではなく家庭に支払われる所にあります。経済的な階層もはっきりしている国ですが、今回訪れた施設は裕福な家庭層を対象にしており、中国語・英語・日本語の獲得を目指したプログラムもあり、参加学生にとっては、他言語国家の実像に触れることで多くの刺激



があったようです。今回、いずれの施設でも、見学だけでなく幼児とのふれあいの時間を設けていただきました。そこで、4人ずつ4グループに分かれてミニシアター活動を計画し上演しました。そこでのチャレンジも自信につながったのではないのでしょうか。最後の夜はちょうど、年に一度のシンガポールナイトフェスティバルにあたっていたので、この夜だけは門限時刻には少し目をつぶることにしました。美味しい中華料理の後みんな一緒に、市街地のあちらこちらにあるキリスト教会など歴史的な建物を巡ったプロジェクトシンガポールの夜も堪能しました。



遠藤 知美 (児童福祉学科1年 都立小川高等学校出身)

8月25日から29日にかけての4日間、インターナショナルフィールドワークの授業で「シンガポール」に行ってきました。初めての海外で不安でしたが、私はシンガポールに行き保育について学べたことができて良かったと思えました。

シンガポールでは、4つの日本人の方が運営するインターナショナルスクールなどの施設に行きました。そこでは見学を通して、シンガポールの環境に合わせた園の特色や考え方を学ぶことができました。それぞれの施設に滞在した時間は少なかったけれど、手遊びやパネルシアターなどを通して現地に住んでいる子どもたちと関わることができたことも良い体験になったと思います。

この4日間をシンガポールで過ごして、将来就職を考える上で日本から世界へと視野を広げることができたと思います。



笠井 遥 (児童福祉学科2年 県立橋本高等学校出身)

今回、インターナショナルフィールドワークの授業で「シンガポール」のPre-schoolに見学実習に行きました。多国籍で様々な言語が飛び交う環境で子どもたちが専門的な授業を受けている姿は、日本にはない保育・教育で、環境が異なるものなのかと驚きました。その中でも、日本人の子には日本のアイデンティティーや立ち振る舞い、常識的感覚を身に付けた上で他の国の文化・言語を受け入れ理解する力をつけていくように支援を展開していくというスクールもあり、私自身とても共感しました。海外自体初めての私にとって何もかもが新鮮で、授業だけでは学べない保育実践の奥深さを知ることができました。この経験を活かして更なる学びに繋がっていきなす。





相模原市の保育を取り巻く状況では今年の4月に待機児童0を発表したものの、国の定義に基づき特定の保育所を希望する方や自宅で求職活動をしている方などを除いている為、認可保育園へ入所できない保育者が多い状況です。保育所の新設などをして受入を拡大する中、保育士の人材確保や質を向上させていく取り組みの1つとして7月より保育士等就職支援コーナー(ディネーター)を配置することとなり、そちらで就業させて頂いております。

私は、求職者が生き生きと働き、安心して子育てができることを目標として主に2つのことを誇っています。業務にあたっています。

1つ目は、個別相談をじっくりおこない個々にあった保育施設をマッチングさせていくことです。

2つ目は、説明会やセミナーを通して保育士の魅力や、自己啓発につながるものを企画し伝えることで後輩である新卒者や、潜在保育者の方が良い経験を、その後の保育士の仕事につなげられるようにすること。母校である和泉短期大学とも連携しており、後輩の方の喜びや感動につなげられるようにしたいです。

今後、保育士としてやりがいを持って長く働いていただける方が増え、それが保育所に預ける方の安心につながり社会貢献につながるよう努力していきます。

卒業生の活躍

相模原市就職支援センター
保育士等就職支援コーナー(1991年卒業)

清水礼子



研修終了後(右から2人目が本人)

今回の3日間の研修のうち2日間行った図書館業務では、資料の配架、整理や発注などを体験させていただきました。和泉短期大学の図書館は、大型絵本や紙芝居などが充実しており、在学生だけでなく幼児教育の現場で働いている卒業生までもが借りにくく驚きました。また、司書の方々はどのようにすれば学生が本を読んでもくれるかということに熱心に向き合った姿はとても感心させられました。

最終日は広報業務として、翌日のオープンキャンパス資料の準備を手伝わせていただきました。来校者にとって見やすい手作りの資料作りや、日々変化する受験生のニーズに臨機応変に対応し、よりよいものを在生と協力しながら作り上げていく姿勢は、公立学校の職員として見習わなければならないことだと感じました。

同じ教育の現場に立つものとして、今回の研修で学んだことを活かし、学生が生き生きと能動的に学び、社会に飛び立っていき学校をより上げていきたいと強く思いました。

社会体験研修メッセージ

神奈川県立相模田名高等学校
教諭 齋藤 英幹

退任あいさつ

広報渉外ユニット 菅原 千紘



2014年7月より1年弱、主にオープンキャンパス・入試の運営等を担当させて頂きました。特に想い出深いのは、学生と共に汗をかき、意見を交わし合いながらオープンキャンパス運営の改善に努めていったことです。このような機会を与えて頂いたことを心から感謝しております。皆様ありがとうございました。

新任職員紹介

健康管理センター 保健室 河野 徳美



9月より、健康管理センター 保健室で看護師として勤務しています。皆さんが自分の身体と心の健康を管理し、充実した学生生活を送れるように健康管理センターはお手伝いしたいと考えています。身体や心の問題が生じたときばかりでなく、健康的な日常生活を過ごせるよう気楽に利用して頂くことを期待しております。どうぞ宜しくお願い致します。

広報渉外ユニット 大嶽 陽子



10月より広報渉外ユニット職員として勤務させていただきます。私自身も学生時代に、短期大学で幼児教育を学びました。このご縁を大切にしながら、和泉の魅力をもっと多くの方々に伝えたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

人事

採用

2015年9月1日付
河野 徳美
健康管理センター

2015年10月5日付
大嶽 陽子
広報渉外ユニット

お慶び(誕生)

■穴井 康夫
教育・学習支援ユニット
長女(希那)
2015年9月7日生

退職

2015年10月31日付
菅原 千紘
広報渉外ユニット

訃報

主による平安をお祈りいたします。

■故 伊藤 恵子氏
(伊藤忠彦チャレン
御母)
2015年8月9日

■故 仲村 優一氏
(本学元非常勤講師
)
2015年9月28日

■故 若林 美代氏
(芹澤薫庶務ユニット主任
御母)
2015年10月2日

■故 山本富美子氏
(山本正司専攻科専任講師
御母)
2015年10月16日

TOPICS

7/22

第50回全国私立短期大学体育大会参加 第5回結団・ユニフォーム贈呈式



7月22日(水)、和泉クラーク・ホールにて、教職員、在学生、大会に参加する各サークルの選手が参加して、全国私立短期大学体育大会第5回結団・ユニフォーム贈呈式が行われました。深町正信理事長、佐藤守男学長から激励の言葉があり、選手を代表し 鈴木円佳(2年生)バドミントンサークル部長が宣誓を行いました。その後、大下聖治学生部長からユニフォームが贈呈され、角田知子父母会会長、臼井智恵子同窓会副会長、木村治男後援会会長より挨拶をいただき、最後に必勝を祈願して職員からエールを送りました。



7/28

大型絵本展示書架設置

大型絵本の価値をさらに高めるため、図書館の入口付近に専用書架を設置しました。幅4.5m、奥行き0.7mの木製の巨大書架で、ほとんどの絵本は書棚にすっぽり収まります。背表紙がずらりと並ぶ光景は圧巻ですが、ぜひ取り出して手にとって見てください。大型絵本を手にするときの重量感やワクワク感も同時に楽しめます。



8/3~6

第50回記念全国私立短期大学体育大会結果報告

8月3日(月)~6日(木)、第50回記念全国私立短期大学体育大会に、女子バドミントン、女子バスケットボール、男子バスケットボールの各サークルが出場し、男子バスケットボールサークルは全国3位になりました。

■女子バドミントン(於:小田原アリーナ)

女子バドミントンサークルは団体戦とダブルスに2年生4名が出場し、初めて出場した団体戦では初戦を突破することができました。

■女子バスケットボール(於:船橋アリーナ)

バスケットボールサークルは2011年にBブロックを制し、2012年からAブロックに昇格しています。強豪の揃うAブロックで3年連続での初戦突破を目指しましたが、敗退となりました。

■男子バスケットボール(於:船橋アリーナ/日本大学理工学部体育館)

【全国3位】

男子バスケットボールサークルは全員1年生のチームで挑み、3チーム総当たりの予選を突破し、決勝トーナメント(4チーム)に進出を果たしました。トーナメントは初戦に全国1位となった強豪、新潟工業短期大学と対戦し、必死に戦いましたが敗れてしまいました。しかし、初めての全国3位と快挙を果たしました。



9/9

第7回市内高等学校との教育研究会

9月9日(水)、第7回教育研究会を開催し、相模原市内9校の高等学校から校長先生、教頭先生方にご参加いただきました。松浦浩樹副学長・教務部長より「生きる力」のコンセンサスを求めて「無痛文明」における人間教育を考える一の話題提供がされ、その後4グループに分かれて意見交換が行われました。各高等学校の先生方からいただきましたご意見を参考に、地域に根ざした短期大学として教育改革に取り組み、今後とも市内高等学校との連携強化に力を注いでいきます。



10/21

2015年度サンクスギビングフェア(3回目)

10月21日(水)サンクスギビングフェアを開催しました。いずみ祭を目前に控えて、いつも以上に学生パワーが満ち溢れたフェアとなりました。好評により、無料ドリンクは10:30には終了、100円ランチ「ハロウィンミートドリア」も昼休みが始まる前に完売しました。また学生食堂のじゃんけん大会、コンビニのくじ引きなど当たっても外れても笑顔で盛り上がりました。



10/24・25

第49回いずみ祭



10月24日(土)、25日(日)に「第49回いずみ祭」を開催しました。今年度は、和泉で保育を学ぶ学生として、子どもたちが集まり賑わう場、親子で遊べる場、学年を通して学生が学べる場を作りたいと思い、4月から時間をかけ計画をしてきました。教室全体を使ったパルンドームや学内を探検するスタンプラリーなど子どもたちが楽しめる場作りをしました。当日は天候にも恵まれ、たくさん子どもたちが学校で賑わいました。新しい計画には多くの困難がありましたが、今までにない雰囲気、学生も高い満足感を抱いています。来年度も、子どもたちを始めとする地域の方々が、より楽しむことのできる「いずみ祭」を作ってまいります。



2015年度「教育環境充実資金」募金のお願い

和泉短期大学では、教育の充実を図り、施設維持整備を目的に新入生のご家族、同窓生を対象に「教育環境充実資金」へ募金の協力をお願いしております。任意ではございますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●募金対象事業

- 1) 施設・教育設備の整備(アクティブ・ラーニング室整備、2号館(研究棟)外壁塗装工事他、教室プロジェクター設置)

2) 震災・災害対策

3) その他

- 設置費用 10,000,000円
- 募金期間 2015年6月～2016年3月
- 寄付金額 一口5,000円
- 募金担当 和泉短期大学 経理・施設ユニット [042-754-1133] にお問い合わせください。

寄付者一覧(敬称略) <2015年7月1日～10月31日> 500,000円

今泉 治子/小椋 郊一/片桐 寿子/片山 知子/加藤 喜代志/川井 俊幸/河村 裕文/岸川 洋治/北原 歌子/小久保 光世/雑賀 えり子/佐久間 志保子/櫻井 奈津子/島村 誠/志村 美佐子/杉山 佳子/曾根 真理子/武石 宣子/戸塚 恵子/長尾 大/仲澤 眞/中山 園子/新田 恭平/松山 由佳子/宮本 和武/森 三樹/山本 美貴子/横川 剛毅/吉田 雅彦/以上29名

専門実践教育訓練給付金 (専攻科 介護福祉専攻)

<教育訓練給付制度とは?>

- ・厚生労働省による、働く方のスキルアップを支援し、雇用の安定、再就職の促進を図ることを目的とした制度です。
- ・一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者(在職者)または一般被保険者であった方(離職者)が、専攻科介護福祉専攻に入学し介護福祉士資格を取得した場合、本人が卒業までに実際に支払った学費(入学金、授業料)の40%(上限年48万円)が給付されます。
- ・支給対象者は、入学までに通算して2年以上の雇用保険の被保険者期間を有している方です。

給付金
受給まで
の流れ

2016年2月末日まで
ハローワークにて相談・申請
必要書類の提出(ご自身で行う必要があります)

在学中

半年毎にハローワークへ 申請⇒給付※
※ 2016年10月に約28万円
2017年4月に約4万円が支給されます。

卒業(資格取得)・就職

本学で介護福祉士取得後1年以内に就職した場合
申請⇒追加給付※
※ハローワークから16万円が
追加支給されます

詳細は和泉短期大学ホームページをご覧ください。

問い合わせ先 和泉短期大学 広報渉外ユニット 042-754-1133 (代表)

専攻科介護福祉専攻 一般入試

★専攻科 介護福祉専攻の受験をご希望の方は、本学にお問合せ下さい。専用の出願書類一式をお送りします。

出願資格

1. 厚生労働大臣の指定した保育士養成施設を卒業または2016(平成28)年3月卒業見込で、保育士資格を取得済み、または取得見込の者。
2. キリスト教信仰に基づく本学の教育方針を尊重する者。

選考方法 作文、個人面接、書類審査

時間割 9:30～ 9:40 オリエンテーション
9:40～10:40 作文
10:50～ 個人面接

学納金 学納金は合計で1,329,000円です。
※2016年度より月払い制度を導入します。
※和泉短期大学の卒業(見込)生は、入学金(290,000円)が免除されます。

試験日程(B日程)

出願期間 2015年11月13日～2015年12月2日
選考日 2015年12月12日
可否通知発送日 2015年12月17日

試験日程(C日程)

出願期間 2016年1月21日～2016年1月29日
選考日 2016年2月 3日
可否通知発送日 2016年2月 4日

試験日程(D日程)

出願期間 2016年2月15日～2016年2月26日
選考日 2016年2月29日
可否通知発送日 2016年3月 3日

クリスマスコンサート (子育てひろば「はっぴい」)

12月12日(土)、和泉クラーク・ホールにて、子育てひろば「はっぴい」のクリスマスコンサートを開催します。開催時間は、午前10時45分から正午まで。ハンドベルやパイプオルガンの演奏、聖歌隊によるクリスマス・ソングのほか、学生の出し物など、ご家族がそろう楽しめる内容です。(参加は無料です。「はっぴい」ご利用の家族は、要保険料100円。駐車場有)

開催日: 12月12日(土)

10:45～12:00

受付: 9:30 はっぴい受付

10:30 コンサート受付